

いちごの甘さは木のぬくもりから

1 事業の主体

事業実施主体	(有限会社) 企業みらい	代表者	細井 諭
住所	秋田県仙北郡美郷町街道東201-1	電話番号	0187-84-2882

2 地域の現状 (施設が所在する市町村又はバイオマス利活用に地域との関連がある場合はその市町村のデータ) 施設が所在する市町村名：(美郷町)

総世帯数	6,326 戸	農家数	3,097 戸	林業経営体数	120 戸	漁業経営体数	- 戸
総人口	23,035 人	総土地面積	16,780 ha	林野面積	7,180 ha	田耕地面積	6,280 ha
普通畑面積	272 ha	樹園地面積	49 ha	牧草地面積	142 ha	乳用牛頭数	290 頭
肉用牛頭数	690 頭	豚頭数	1,720 頭	採卵鶏羽数	x 羽		

3 事業の概要

(有) 企業みらいは、平成17年9月から間伐材等のチップをハウス施設の暖房用に活用し、いちごの高床式栽培に取り組んでいる。

原料の木質チップは、産業廃棄物処理業者の(有)企業さきがけが、産業廃棄物として持ち込まれる伐根や間伐材をチップ化処理しているが、たい肥として土地へ還元してきた取組を、(有)企業みらいはこのチップ材が熱源として利用することに着目した。(有)企業みらいは、平成14年に地域の雇用創出を目的に異業種の話合いで設立されたが、会社の設立に当たり(有)企業さきがけと、チップの購入価格(無償)、運搬等の採算性を考慮した上で有限会社として設立されたものである。

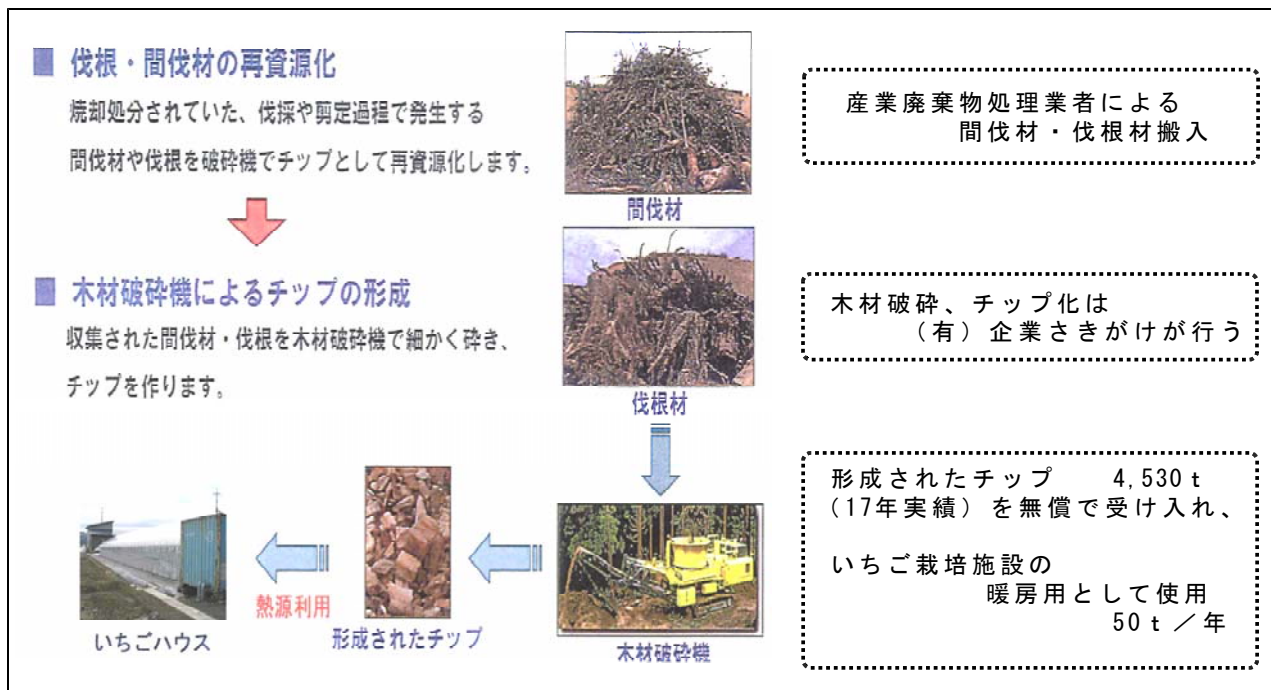
原料となる木質チップは、およそ5km離れた産業廃棄物処理場から同産業廃棄物処理業者が搬入する。施設は、ビニールハウスにチップ燻熱処理機が設置されており送風機によってハウス内を加温する。

17年度は、11月から6月までの栽培期間で0.5トンの収穫となっており、近在のスーパー等に販売している。

また、燻熱処理過程で製造される木酢液や木炭などは土壌改良材として利用している。

4 現在の取組状況

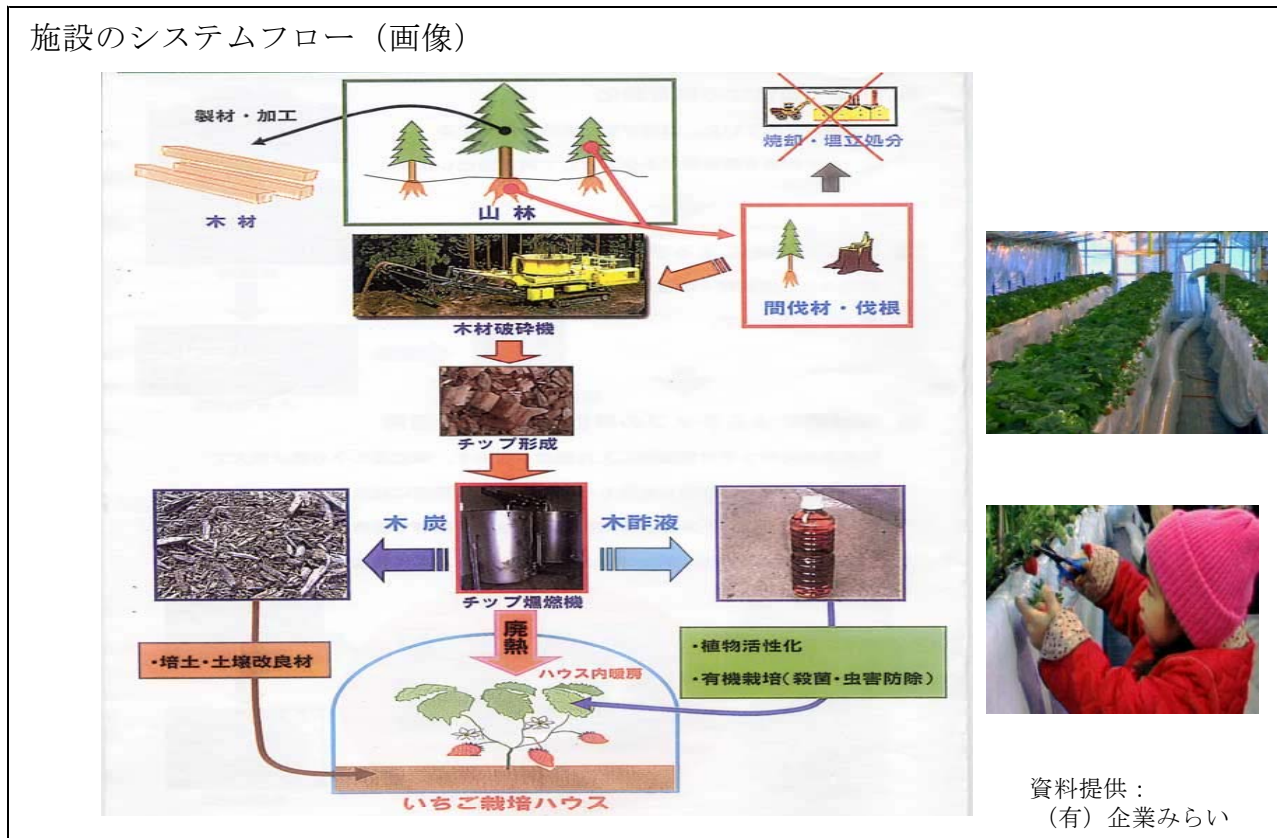
推進体制、収集システム (バイオマス利活用の関係団体等のフロー図)



5 施設の概要

施設名称	みらいハウス (仮称)	電話番号	なし
施設設置主体	(有限会社) 企業みらい	稼働開始年	平成17年
導入補助事業	なし		
主な設備	ハウス、チップ燻熱機、送風機、暖房室、暖房機	施設整備費 運転状況等	7,000 千円 1日の稼働時間： 24 時間 年間の稼働日数： 未定 日

施設のシステムフロー (画像)



6 経済試算 (ランニングコスト、施設の減価償却費、耐用年数)

17年9月からの稼働のため、現在のところ未定。

7 経済面以外の資産 (事業の効果 (実績)、今後期待される効果)

産業廃棄物である伐根・間伐材をチップとして利用し、いちご栽培施設に暖房の熱源として利用するほか、木酢液や炭としてほ場に還元することにより廃棄物を利活用する循環型社会形成の一役となる。

冬期間にハウス施設での作物栽培を可能にすることで、地域における作物の周年栽培、雇用の創出、地域農業の活性化につながる。

8 現在の課題と展開方向

消費者からは、栽培しているいちごに煙臭さが残るというクレームも一部にあり、現在対策を思案中である。

取組を始めてから間もないため、いちご栽培技術の向上が必要であり、専門家により技術習得に係る研修を進める予定である。

今後は、木質チップの熱源利用の有効性を実証することで、冬期間における多品目の促成栽培の団地化を進めるとともに木酢液や炭の有効利用を検討することとしている。